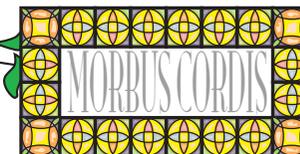




第52回滋賀県立成人病センター研究所セミナー



下丘において音刺激により惹起される 可塑的神経活動性変化

金沢医科大学医学部・生理学1 講師

小野 宗範 先生

6月27日（月） 午後5時15分～6時15分

場所：研究所会議室（1F）

神経細胞は可塑的に活動性を変化させる性質（可塑性）をもち、脳内での動的な情報処理や記憶の形成を実現していると考えられている。今回、中枢聴覚情報の総合処理の起点である下丘において、一部の細胞がこれまで知られてこなかった可塑性を持つことを発見した。下丘神経細胞は音入力に対して様々な応答活動を示すことが知られているが、約20%ほどの細胞は秒単位の時間内に、音刺激により引き起こされる活動に応じて自らの活動性を変化させることを見出した。この結果から、下丘神経細胞は刻一刻と変化する音環境に対応して、動的に活動性を変化させながら音情報を伝達している可能性が示唆された。

主催：滋賀県立成人病センター研究所

問い合わせ先：研究所事務室（077-582-6034, 内線 8101）

世話人：西村 幸司（専門研究員）knishimura@mdc.med.shiga-pref.jp

来聴歓迎

